

科目名	感染制御学特論 (Advanced Study on Infection Control and Disease Prevention)			科目コード	M314
選択区分	選択	履修時期	1 前	単位数 (時間)	2 単位 (30時間)
担当教員	北尾 孝司			関連DP	医④⑤⑥
授業概要	病院内感染を起こす原因微生物の種類と特徴について理解すると共に薬剤耐性機構および薬剤耐性遺伝子の検査方法について教授する。				
授業目標	本科目では、感染制御に向けて、保健医療職の中でも主として臨床検査技師としてどのように貢献できるかについて探求する。具体的には、病院内感染の原因微生物の種類・菌の特徴および抗菌薬に対する薬剤耐性因子・薬剤耐性機構などについて遺伝子学的なレベルで理解すると共に施設内感染発生時における分子疫学調査の方法および対処方法について学習する。また、事例を基に臨床検査技師がインфекションコントロールチームの中においてどのように感染制御に実践者として係わっていくのかについて学習すると共に臨床検査室に於いて感染制御のリーダーシップがとれるように幅広く学習する。				

授業内容とスケジュール

回	項目	内 容
1	ガイダンス	科目の趣旨説明と講義等の進め方についての説明 感染制御に関する問題意識の整理
2	病院内感染の起因微生物	病院内感染の起因微生物の種類と特徴について
3		病院内感染の起因微生物における病原性遺伝子について
4	薬剤耐性機構	抗微生物薬剤に対する低感受性および耐性菌、多剤耐性菌の種類と耐性機構について
5	薬剤耐性遺伝子	抗微生物薬剤に対する低感受性および耐性菌、多剤耐性菌の耐性遺伝子について (1)
6		抗微生物薬剤に対する低感受性および耐性菌、多剤耐性菌の耐性遺伝子について (2)
7	カテーテル関連の血流・尿路感染症	カテーテル関連の血流・尿路感染症の原因微生物の特徴について(バイオフィーム形成を含めて)、血液培養検査における結果の解釈
8		カテーテル関連の血流・尿路感染症の原因微生物の特徴について(バイオフィーム形成を含めて)、血液培養検査における問題点
9	迅速検査法・遺伝子検査法	薬剤耐性菌の迅速検査法、遺伝子学的検査法および結果の解釈について
10	迅速検査法・遺伝子検査法の問題点	薬剤耐性菌の迅速検査法、遺伝子学的検査法の問題点
11	ICTにおける臨床検査技師の役割	インフェクションコントロールチーム (ICT) における臨床検査技師の役割と他職種間との連携について、感染防止の意識啓発、教育について
12	分子疫学調査方法	分子疫学マーカーを用いた発生源の分子疫学調査方法について
13	新しい分子疫学調査方法	新しい分子疫学調査の方法 (POT法など) について検討する
14	事例分析	感染制御における事例分析
15	感染制御	感染制御における新しい知見について：事例分析
成績評価方法		口頭試問 (50%)、レポート (50%) の割合で評価する。
必携あるいは参考図書・文献		参考図書 ①山中喜代治 他編集 実践感染管理(金原出版) ②一山智 他監修 感染症診療の基礎と臨床(医薬ジャーナル社) ③平松啓一 編 改訂第2版 耐性菌感染症の理論と実践(医薬ジャーナル社)
授業時間外の学習について		前回の項目について配布プリント及び参考図書・文献等を参考に復習する。次回の項目について参考図書・文献等を参考に予習する。
関連科目		301 臨床検査技術学特論、315 感染制御学演習
備 考		